

(図画工作)

## 対話を通して、形や色、イメージについての思考が深まる図画工作科の指導

大阪市立豊崎東小学校 研究部

### 1. 研究主題設定の理由

本校では、「目標に向かって、協力し、やりぬく子どもを育てる」という学校教育目標を掲げ、各教科の基礎基本をもとに、これまでの研究の成果をあらゆる教育活動に生かすことで、「生きる力」を育み、豊かな人格を形成できるように取り組んでいる。

本校では、令和2年度から研究教科を図画工作科に設定した。今年度は3年目にあたる。

2年目を終えての研究の成果には、「6年間の系統立てた指導の確立」「指導材を共有することによる授業準備の軽減」「“材料銀行”を活用した授業準備と実施」「書画カメラやタブレットを活用した鑑賞や工夫の共有」「板書やヒントカードの使用による、子どもの活動時間の確保」等があるが、研究を進めてきたからこそその課題も見えてきた。それは、「写真、映像、実物など、目的に合わせた提示法の必要性」「作業を手順通りに進めるだけではなく、子どもが主体的に学ぶ授業の確立」「授業構成における鑑賞時間の設定」「言葉で伝え合う方法以外での表現のよさを感じ取る力の育成」等である。

3年目も研究主題は引き続き「対話を通して、形や色、イメージについての思考が深まる図画工作科の指導」に設定し、昨年度からの課題を解決し、研究をより深めていくことにした。

### 2. 研究の趣旨

本校では、令和2年度から研究教科を図画工作科に設定した。それには、以下のような子どもたちの実態があったからであった。

- ・入学時に多くの子どもが、はさみやのりを使った経験が少ない。
- ・折り紙や塗り絵など、図画工作科の活動につながるような遊びを、家庭ではあまりしていない傾向にある。
- ・自分の思い通りに表現できず、苦手意識を持つ子どもがいる。

しかしながら、それに取り組む学校には、「6年間の系統立てた指導計画が立てられていない。」「他教科に比べて、指導者が授業を研究してきた経験が圧倒的に少ない。」「造形遊びや鑑賞活動など、活動そのものや評価が難しいと感じる題材に不安を感じている。」等の実態があり、それを解消し、児童の苦手意識の克服や対話を通して表現をする力を育むことをめざし、「対話を通して、形や色、イメージについての思考が深まる図画工作科の指導」という研究主題を設定し、研究を進めてきた。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点① 児童がよりよく学ぶための工夫

- 必要なことを必要なときに確認できるように、用具の使い方や作業のポイントなどを、写真や絵などを用いながら示す。
- 子どもたちに細かい部分を説明する際、伝わりやすいように、指導者の手元の様子を映したり、作品をいろいろな角度から子どもたちに示したりする。
- 材料置き場は、活動する人数に応じて数か所に設けたり、種類別に整理して配置したりする。

○ワークシートを使用し、子どもたちが考えたことを整理したり、気づいたことを書き留めたりする習慣をつけるようにする。

#### 視点② 活動中心の授業の確立

○授業の構成を工夫することで、子どもたちが考えたり、つくったり、伝え合ったりする活動時間が十分にとれるようにする。

○作品製作に取り組む前に、材料と十分に触れ合う時間を設け、材料の特性を理解し、有効に時間を使って、活動を進めさせる。

#### 視点③ 自分の思いを積極的に表現する力の育成

○好きな色、好きな材料を存分に使える場を用意する。

○図画工作科の時間だけでなく、普段から子どもたちが自分の思いを表現する機会を設けたり、雰囲気づくりをしたりしていく。

○作品をつくる前、つくっている途中、つくり終わって完成した後と自分の思いを伝える機会を意識的に設ける。

#### 視点④ 自分や友だちの表現のよさを感じ取る力の育成

○作品が完成したときの子どもの思いだけでなく、つくっている過程の思いを大切に指導を意識する。

○ワークシートを使用することで、自分と友だちとの対話だけでなく、自分と作品との対話が深まっている過程を可視化する。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

○製作途中の作品を写真で記録したり、動きを確かめるために動画で記録したりして、自分の作品を見返すことができた。その結果、新たな発想や構想を生み出す手掛かりとすることができた。

○完成した作品を撮影しておくことで、平面作品だけでなく、立体作品についても一年間の振り返りを学年末に行うことができた。

○ワークシートを使用し、子どもたちが考えたことを整理したり、気づいたことを書き留めたりすることで、作業の見通しを持って作品製作に臨んだり、前回の授業で考えたことなどを確認したりしながら、進めていくことにつながった。

○学年掲示板や、職員室前の展示スペースなどを活用して、自分の学年以外の鑑賞を定期的に行うようにすることで、工夫しているところをたくさん見つけられ、意欲につながった。

○図画工作科の時間だけでなく、普段から子どもたちが自分の思いを表現する機会を設けたり、雰囲気づくりをしたりしていくことができた。それによって、自分の思いを表現する環境が日常的に子どもたちの周りに準備されており、図画工作科以外の教科にも有効に働いた。

### (2) 今後の課題

●活動時間を確保するために、板書が完成された状態で授業に臨む場合が多かった。どのような示し方をするのが適切なのか、よく考えて指導する必要がある。

●絵が上手く描けない、失敗しそう、時間が足りないといった思いを持っている子どもが図画工作科に対して否定的な思いを持っていることが分かった。友だちと一緒にすることで安心できたり、アイデアをもらったりする中で、自分ができそうな表現と出会い、よさを認めてもらった経験が積み重なることで、自信につなげていくことが必要である。